

医療産業の集積を目指す岡山県で、さまざまな分野のメーカーが、岡山大病院(岡山市北区鹿田町)と連携し、新たな医療用品の開発を進めている。17日、同大鹿田キャンパス(同所)で始まった医療展示会「メディカル・イノベーション」(同大主催、

18日まで)には地元関係5社が試作品6点を出展。いずれも医療現場を支える製品のイノベーション(技術革新)をテーマに、看護師や放射線技師らのニーズを聴きながら昨春から取り組んできた。各社が工夫を凝らした試作品を紹介する。(伊東圭一)

目指せ 医ノベーション

岡山発の試作医療用品

上

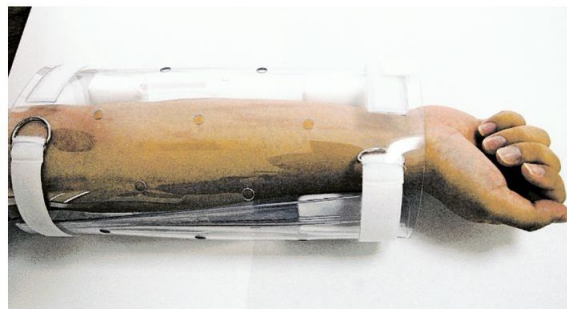
協和ファインテック

透析用腕固定具

しやすい。

透明で針の確認容易に

透析では腕の2カ所に注射針を刺すが、認知症などで針を抜いたり、腕を動かすケースがあるため固定具を着用する。開発した製品は透明ビニール製で、腕に巻き付け部分が見えず、抜けた際に発見が遅れる場合があるという。橋本明典社長は「高齢化に伴い認知症の透析患者も増えていく。安全性向上に役立てたい」と話している。



人工透析用の腕の固定具。透明素材を使って可視化した

人工透析装置など製造の協和ファインテック(岡山市東区金岡西町)は、透析の際に使う腕の固定具を開発した。透明素材で、注射針を刺した部分を看護師らが確認できるようにしている。現行の固定具は布製バンドで腕を覆うタイプが主流。針を刺

MRなどを使う幼児用簡易ベッド



ダイヤ工業

画像撮影用幼児ベッド

圧迫感与えず体を固定

医療用のコルセットやサポーターなどを主力とするダイヤ工業(岡山市南区古新田)は、磁気共鳴画像装置(MRI)やエックス線の撮影時に使う幼児向通常はベルトなどで体を固定するが、「幼児へのストレスが大きい」との医療現場の声を受け考案した。「サポーターなどの製品で培ったノウハウを生かし肌触りに入りクッションと掛け布のセット。掛け布は特殊な織り方です」と同社。

医療用のコルセットやサポーターなどを主力とするダイヤ工業(岡山市南区古新田)は、磁気共鳴画像装置(MRI)やエックス線の撮影時に使う幼児向通常はベルトなどで体を固定するが、「幼児へのストレスが大きい」との医療現場の声を受け考案した。「サポーターなどの製品で培ったノウハウを生かし肌触りに入りクッションと掛け布のセット。掛け布は特殊な織り方です」と同社。

メカニカルサポーター

点滴スタンド金具

患者を搬送するストレッチャーに点滴スタンドを取り付ける金具を開発したのは、福祉機器など製造のメカニカルサポーター(岡山市南区妹尾)。全長約15センチのステンレス製。ストレッチャーのフレームにはめ込み、クリップでスタンドをつかむ。クリップは

レバーで開閉。指先で簡単に操作できる。

点滴パックや輸液ポンプなどをつ



メカニカルサポーターの金具(点線)でストレッチャーに固定した点滴スタンド

り下げたスタンドを、そのままストレッチャーにセットし移動できるのがポイント。従来はスタンド下部の車輪を外し、パックなどをつるした上部だけをストレッチャーに付け替えるのが一般的で、同社は「薬液やポンプは重量があり手間がかかる。看護師らの作業軽減と、緊急搬送の迅速化にもつながる」とする。